

>> 小林工業 株式会社

創業からの巧みな技で未来を変える最先端技術の一翼を担う



代表取締役社長 さとう まさき
佐藤 正樹

小林工業 株式会社

〒015-8686 由利本荘市石脇字赤ハゲ1-372

TEL:0184-22-5320

FAX:0184-24-6100

<https://www.kobayashi-akita.co.jp/>



HP

磁気の特化した金型技術で開発に力を注ぐ

由利本荘市に本社を置く小林工業株式会社。昭和27年に創業し、家内工業のような規模で始まったフットプレスをを用いたフェライトの成形加工から、徐々に成形機や独自の精密金型製作へ進化を遂げていった。同社ではその長い過程の中で培った高度な技術力を強みとしている。1000分の1ミリ単位の精密加工を武器とする同社の転機は、約30年前に起きた家電メーカーによる海外生産体制へのシフトだった。国内の工場縮小に直面し海外進出に踏み切る可否かの岐路に立ったとき、国内外へ販路を開拓したことが技術力と対応力を高める機運となった。

秋田大学と秋田県立大学を中心に県内企業等が連携し、次世代モーターの産業拠点化を目指す「電動化システム共同研究センター」が設立され、同社に協力依頼が舞い込んだ。「プラスチックマグネット金型」技術に加え、磁石成形の高度な加工ノウハウを独自に保有していることが決め手となり、超高速モーター開発という先進的な事業に参画することとなった。

電動化産業実現のため技の磨きは止めない

電動化システム共同研究センターからの依頼を、どう実現するか。これまでも無理難題に対応してきた同社の技術者たちは、どう加工すれば作れるかを突き詰め、独自の金型構造と加工技術を組み合わせて工夫を凝らした。実現のため、大学側とヒアリングを重ねて設計変更を行い、まずは目標としていた250kW大出力モーターや超高速モーターの回転子の試作に携わり、成功を収めた。

これらの開発技術はドローンやその先にある航空機への搭載が期待されている。一方で本格的な航空機電動化の事業化は十数年先とされている長期的な取組であり、すぐには利益に繋がらない。代表取締役社長の佐藤正樹さんは「地元で航空機電動化のための事業に携わった以上、今後もモーター関連の仕事は関わり続けていきたいと考えている。基礎技術やノウハウを地道に積み上げ、次世代の社員達のためにも、この技術を次の自社の柱としてしっかりと育てていきたい。」と夢を描く。



金属を加工して製造する金型は精密さを求められる。オーダーに合わせ、加工方法も多様だ。



同社の金型を使って製造されたさまざまな部品のサンプル。



1000分の1ミリ単位の精密加工には、機械だけでなく熟練の職人技、職人の目が欠かせない。